

外貨返済型の円借款の導入で、より効果的な支援を目指す

01

2013年1月、日本政府は「外貨返済型円借款」を導入しました。

円借款は、技術協力、無償資金協力とともにJICAの支援スキームの一つ。開発途上国に比較的緩やかな条件で開発資金を貸し付けるもので、水、電力、運輸交通などの経済社会基盤の整備から、感染症対策や環境保全まで、多様化する地球規模課題の解決に向けて幅広く活用されています。

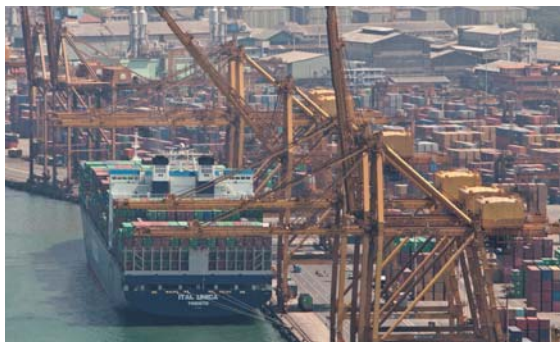
しかし、これまで円借款の貸し付けは円建てで行われ、返済通貨も円に限定されてきました。つまり、借入国側は返済のために円を購入しなければならなかったため、外国為替レートの変動リスクについての懸念を示されることがありました。

その解決策として、この1月から、円借款の返済が米ドル建てでも可能となる制度が導入されました。これにより、従来米ドルを軸に對外債務管理を行っ

てきた国や、港湾や空港など米ドル建ての収入があるインフラ事業などにおいては返済がしやすくなることで、同制度の積極的な活用が見込まれます。また、円借款の魅力が向上することで、インフラ事業を強みとする日本企業の海外進出の活性化に貢献することも期待されています。

JICAはこの新制度の導入に向けて、2011年6月、委員会の設立に加えて、企画部を中心とするタスクフォースを立ち上げ、商品設計、新システム構築に向けた準備、通貨スワップを含む米ドル資金の調達や管理の方法、会計処理方法、リスク管理などの詳細を検討してきました。

円借款で円以外の通貨を取り扱うのは、JICAにとって初めてのことで、円借款がより効果的な開発の手法として、借入国にさらに活用されることが期待されています。



円借款で建設を支援したスリランカの港(上)とインドネシアの地熱発電所(下)。新制度の導入により、国づくりの基盤となるインフラ整備の促進を目指す

02

途上国のメディアが日本の技術を取材

12月3〜14日、JICAは「海外メディア本邦招きプログラム」の一環として、アフリカや東南アジアからメディア関係者15人を日本に招き、日本のインフラの運営・管理技術、中小企業の海外展開、BOPビジネスなどを取材する機会を提供しました。

参加者が最も高い関心を示したのが、日本の輸送インフラ関連技術でした。その一つが、1日1600万人以上もの乗客が利用しているにもかかわらず、時間に正確で安全な運行を実現する東日本旅客鉄道株式会社(JR東日本)。その運営に必要なノウハウや維持管理の技術について、「自分たちの国も見習いたい」と、多くの質問が飛び交っていました。

また、海外展開に取り組む中小企業の例として、電動バイク製造販売の株式会社テラモーターズ、水質浄化剤を製造販売する日本ポリゲル株式会社などを取材。参加者は、「日本の技術は途上国の課題解決に大いに役立つ。世界各地にマーケットを拡大してほしい」と期待を寄せていました。



JR東日本総合車両センターで車両点検の現場を取材する海外メディアの記者

03

「国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト2012」入賞者発表

JICAが毎年開催している「国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト2012」。海外在住者も含めた日本の中学生・高校生が、エッセイの執筆を通じて、世界と日本のつながりや開発途上国の現状について理解を深め、一人一人がどう行動すべきか考えてもらうことを目的としています。

今回、中学生の部は4万4459点、高校生は2万8736点、総勢7万3195点の作品の中から、入賞作品が選ばれました。たくさんのご応募ありがとうございました。

最優秀賞

〔中学生の部〕

●岐阜市立長森南中学校3年 柳原未奈さん
「瞳の輝き」

●松山市立北中学校3年 白石南名聖さん
「日本とブラジル」

●神戸市立歌敷山中学校1年 大須賀詩織さん
「一本の釣り糸から」

〔高校生の部〕

●Lester B. Pearson United World College of the Pacific 3年 奥谷紘子さん
「未来を創る支援」

●聖霊女子短期大学付属高等学校3年 石岡沙保さん
「未来の担い手として」

●静岡県立清水東高等学校3年 城内香葉さん
「繋がっていく」

その他の受賞者一覧は、JICA地球ひろばのホームページをご覧ください。

URL: www.jica.go.jp/hiroba/menu/essay/index.html